

サポ通

さばえNPOサポート通信

■ Vol.14 & 15 合併号

発行日 ■ 2012年3月29日

発行 ■ (特)さばえNPOサポート

編集 ■ 広報サポート事務局

サポ通は、(特)さばえNPOサポートが自主発行している機関紙です

さばえNPOサポートの あるべき姿と課題を 考えてみました。

日々の活動や事業、委員会や理事会などで、時々頭をかすめる「これでいいのかな?」という疑問… 今回のサポ通では、その疑問に焦点を当てて、あらためて「私たち=さばえNPOサポート」の足元と、進むべき方向性を、根本的に見つめ直す企画をお届けします。

■ さばえNPOサポートの目的を共有する — 全員が考え、話し合う場を

私たちは、いったい何のため、誰のために活動しているのでしょうか。

私たち「さばえNPOサポート」の活動目的は、「市民や社会教育団体・ボランティア団体など非営利団体に対して、公益活動の健全な発展を支援・PRする事業を行い、公益増進に寄与する。」とあります。つまりは、私たち「さばえNPOサポート」は市民や市民活動団体に対して、団体自身やその活動をサポートしたり、広くPRしたりする「中間支援組織」なのです。

組織の目的と理念を全員がしっかり理解し、共有しなければ、目的に沿った活動や事業を行っていくことはできません。私たちの団体は、その存在意義を、いま改めて問わなければならない状況に直面しているのです。

まず、私たちがしなければならないのは、いったい何のため、誰のために活動をしているのか? つまり、「さばえNPOサポート」の目的を知り、みんなで共有することなのではないでしょうか。

■ 活動や事業が目的に沿うものかどうかを考える — 市民団体の支援になっているのか 広く市民のみなさんに喜んでもらっているのか 目的に沿うものかどうかの検証も必要

私たちが取り組んでいる諸々の活動や事業は、目的に沿ったものといえるのでしょうか。活動を継続するためだけの“活動の為の活動”になってはいないでしょうか?

重要なのは、単に事業を実施することではなくて、実際に「市民活動団体の求める支援につながるのかどうか?」「より多くの市民に喜んでもらえるような事業であるのかどうか?」です。

事業を企画する段階で、そういったことをしっかり考え、事業を組み立てていく必要があります。また、広報を行う場合は、より幅広い層の市民の皆さんに知ってもらい、興味を持ってもらえるように工夫をしなければいけません。

特に、事業を行った後の検証を行うことは欠かせません。やりっぱなしで済ませてしまっただけでは、白紙白贖に陥り、本来の活動理念を見失う危険性さえあります。

[次ページへ→](#)



◆ 今年の通常総会は4月26日(木)に開催予定。

■ 私たちが主体的に事業を行っているのか —私たち自身にとっても魅力ある事業なのか やる喜びや達成感は？

市民主役条例が制定され、「新しい公共」の議論が進む中、これまで行政が行っていた多くの事業が、市民活動団体に委ねられるようになりました。これは私たちの思いを、行政参画を通して、事業という直接的に形にできる大きなチャンスでもあります。

しかし、事業を行う側に主体性がないと、行政の下請けになりさがる危険性もあります。そうならない為にも、目的をしっかりと持ち、実効性、効率性の高い事業を展開していくのはもちろんのこと、「活動に関わる私たち自身にとっても魅力ある事業であるのか」「喜びや達成感を感じ、成長していくことができる事業なのか」「多くの人たちに、参加したいと思ってもらえる事業なのか」…こういったことを今まで以上にしっかりと考えて事業を作り上げる必要があります。

その上で、事業を担える人材を育てていく視点も忘れてはいけません。

■ 将来、私たちが目指すもの さばえNPOサポートの理想像とは？

- ◎ 行政との関係
- ◎ 市内の市民活動団体の中での位置づけ
- ◎ 市民との関係、他の市町村や
都道府県の団体との連携
- ◎ 活動や事業のあり方
- ◎ 必要な人材の獲得と育成
- ◎ 活動資金の確保…など

そして、私たちが考えなければならないのは、目的に沿い、やりがいのある事業を行っていくことで「鯖江のまちや市民のみなさんにどうなってほしいのか」「何を目指して、事業や日々の活動を行っていくのか」「そのために、さばえNPOサポートはどうならなければならないのか」というビジョンです。

しっかりと目指すものをイメージして、実現すべきビジョンに到達するためには、行政との関係や市内の市民活動団体の中での位置づけ、市民一人ひとりとの関わり方などを見直すとともに、他の市町村や都道府県の団体との連携を図る姿勢も必要です。

また、繰り返しになりますが、個々の事業や活動のあり方もひとつひとつ考えなければなりませんし、それらを遂行するためには、新たな人材の獲得や育成、活動資金の確保も必要になるでしょう。

社会情勢が激しく変化し続ける中で、「さばえNPOサポート」も安泰ではありません。しかし存続させるためだけに生き残る術を考えるのではなく、必要な存在であるからこそ生き残っていくことを考えなければなりません。

今、「さばえNPOサポートの存在意義」や「方向性」について改めて見つめ直すべき時が来ています。

■ 最後に—

私たちは、いったい何のため誰のために活動しているのでしょうか。

この問いに対する私自身の答えは、きっと「自分のため」です。

自分自身のやりがいや喜びのため、自分自身の成長のためです。

私たちの行う事業や活動が、よりよいまちづくりや、より多くの人たちの喜びとなる。それが、私たちのやりがいや喜びとなり、懸命に取り組むことで自分たちの成長につながる。そして、私たちの成長が家庭や職場や地域社会に還元されていく。

そういった流れが多くある社会というのも、私たちが目指す、ひとつの理想ではないでしょうか。

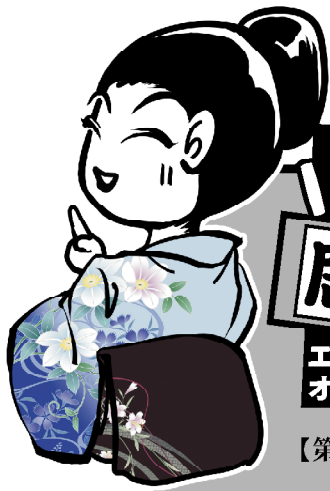
そんな流れを作り出し、その流れの中に、より多くの人たちを巻き込んでいく、それも私たち「さばえNPOサポート」が担うひとつの大きな役割なのではないでしょうか。

今こそ、私たちの立ち位置を確認し、向かうべき方向を見定め、そこへ向かうために何をするのかということ、自分たちが楽しみながら、しっかりと考えていきましょう！

◆「これからも続く長い長い道のり」…
広い視野と長い入りの舵取りが必要です。



【文責】さばえNPOサポート 広報サポート委員会



はるみママの 居酒屋 エピソード NPO

【第4回】

ちょっと増量スペシャル!!

あら、部長さん、飲みすぎじゃない? こんなにグラス空けて、あしたもお仕事でしょ?

まっ、酒臭い! 隣の新人君が困ってるわよ。

もう、そんなるれつもの回らない状態でお説教しても、説得力ないわよ。

え? 「最近の若い奴は積極性が足りない?」「自己中心的」ですって? それもさっき聞いたわよ。ほら、新人君の耳にタコ

ができてるじゃない。今夜はそのくらいにして…なに? 「オバハンはすっこんでろ?」。

…んだとゴルア!!! 情けないぞ話宣ばかりならべて、ナニサマのつもり!?

あんたたちが不甲斐無いから、「近頃の若いもん」が戸惑ってるんでしょが。

不景気にしめられた顔して、ブー垂れてるだけの情けない姿を見て持て余してんのよ。それくらい、そろそろ気づきなさい。

「近頃の若いもん」なんて、古代エジプトから言われてることよ。

あんたたちだって若いころは、その上の世代から同じように白い目で見られてきたんだから、あんたたちの世代が特別じゃないわ。

だいいち、今の若い世代は、本当に繊細な感性を持ち、意欲的で、熱心なコがたくさんいるわ。

東日本大震災の復興ボランティアに、若いコがたくさん参加してるの、知ってるでしょう?

まちづくりの活動でも、あちこちの大学生たちが、知恵を振り絞って、大人たちの中で精いっぱいがんばってるじゃない。逆にあんたたちが青年だったころはどうだったのよ?

若い子たちの情熱や理想が、時に危なっかしく思えても、それを受け止めてあげるだけの度量が必要よ。肩書きで風を切っても、本当の尊敬は得られないわ。若い子たちは、厳しい目であんたたちを品定めしてんのよ? それに気づかない?

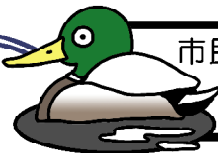
何もできないんだったら、引退するくらいの覚悟を持ちなさい。若い子たちにバトンを渡し、やらせてあげる環境を作ってあげるだけでも、すごく意味のあることだわ。役職にしがみついているだけなら、組織も社会も血のめぐりが悪くなるだけ。

それが嫌なら、しっかり背中を見せなさい。会社も社会も、自分たちが支えているんだっていう自負を、背中で語ってやりなさい!

そうすれば、あんたたちの目に映っている若者たちの瞳の中に、キラキラと輝く星があることに気付くはずよ。

◆はるみママからひと言

オジサンたち、しっかりなさい! Show the flag!



市民活動的トピック・コラム

知ってていいカモ

『新しい公共』の落とし穴!?

これまで、もっぱら行政が行ってきた“公共サービス”の一部を、行政と“協働”することでNPO等が実施し、よりサービスを受ける側のニーズにあった形にしていこうと言うのが、「新しい公共」の考え方です。

ただ、行政とNPO等との連携は、まだまだ難しいところがあるとの指摘も多く、実態は発展途上です。

また、ここに来て、「新しい公共」社会に不可欠な、NPOや市民活動団体同士の連携の難しさも表面化してきています。もともと自分たちの“やりたいこと”や

“やり方”を持っている団体同士、「相手も自分たちと同じように動いてくれるだろう」と思い込んでしまうところも、ひとつの原因のようです。

「新しい公共」の考え方は、色々な価値観を認めるところからスタートしています。

行政であれ他団体であれ、くれぐれも自分の視点だけで判断して、一方的な批判などしないようにしたいものです。

そんな“協働”のコツ…知ってていいカモ☆



あ～ら奥さま、 市民活動「OSANPO」 情報紙 まだ読んで らっしゃら なくて～？



■ついに!というか、ようやく、というか…

昨年12月に発刊となりました市民活動情報誌「OSANPO 出発号」。もう手にとってご覧いただけただけでしょうか？

「僕らにしかできない『市民活動情報誌』を作ろう!」

そんな掛け声で始まった情報誌作成プロジェクト。最初は、まさに暗中模索の五里霧中でした。

「取材って、どうやってするの?」「どんな風にしたら、興味を持って読んでもらえるんやろう?」「記事は誰が書くの?」「何を取材して、何を書いたらいいんやろう?」

取材もしたことがなければ、記事も書いたことがない。ましてや、自分たちで本を作ることなんて考えてもいなかった私たち。「多くの人たちに喜んでもらえる情報誌が、自分たちにできるのだろうか?」

誰も口にはしませんでした。とっても不安な船出でした。

■そこで活動している人と、その“想い”を伝えたくて

どんな情報誌を作るかを考えていくなかで、市民活動や市民活動をする団体を紹介している本や冊子を、たくさん見てきました。とってもよくできているなと感心させられるものもありましたが、何か物足りなさも感じさせられました。どんな活動をしているのか、どこで活動をしているのか、連絡先や所在地など、そういった“情報”は書かれているのですが、どんな人たちが、どんな“想い”を持って活動しているのかが、いまひとつ伝わってこない。

市民活動に携わる人たちは、何かしらの“想い”を持っているものです。その“想い”が活動の原点となっているのです。ですから、単なる“情報”だけでなく、その活動に携わっている人と“想い”をしっかりと伝える市民活動情報誌を作ろう! そう決意を新たにしました。

■この「OSANPO」も…

今思えば、まさにこの市民活動情報誌「OSANPO」も、私たちのそんな“想い”が形になったもののひとつです。私たちの“想い”は、みなさんに伝わっているでしょうか? ぜひ、読んでみて感じた率直なご意見をお聞かせ下さい。また、もし、まわりにまだ読んでいない方がいらっしゃったら、ぜひ薦めてみてください。多くの人のご意見を聞くことで、より多くの人の“想い”を形にしていくことができます。

「なくなったら困る!」「うちにも、ぜひ、取材に来て欲しい!」

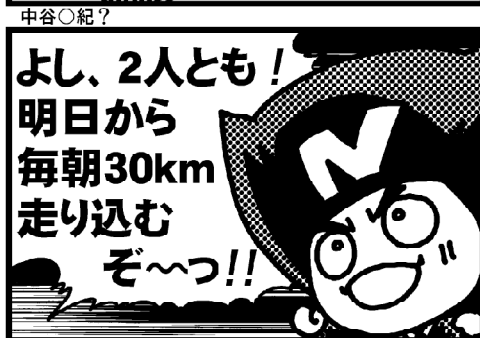
多くの人たちに、そう言ってもらえる「OSANPO」をそんな市民活動情報誌に育てていこう! それが、私たちの今の“想い”です。



第9回

ichiyu kokoro
by 一由ココロ

継続は力なり



市民活動の鉄則:
楽しくなければ活動は継続しない。

人も集まんないんだよね〜

広報サポーター募集中!!

★簡単なお手伝いでもOK。個性的な仲間が揃ってます☆詳しくは、(特)さばえNPOサポート事務局・松田まで。

編集・お問い合わせ

非特定営利活動法人 さばえNPOサポート

〒916-0024
福井県鯖江市長泉寺町1丁目9-20 鯖江市市民活動交流センター内
TEL: 0778-54-7055 FAX: 0778-54-7058
[Eメール] info@sabae-npo.org
[ホームページ] http://www.sabae-npo.org

「OSANPO」～出発号～をほしい方は、ぜひ、さばえNPOサポートまでお問い合わせ下さい!!(無料)